

□ ■タイ企業インタビュー■ □

～日系企業との取引に関心のあるタイ現地企業をご紹介します～

SCC Tech Co., Ltd.

エス・シー・シー・テック株式会社



1. 御社の業種と企業規模（従業員数など）について教えてください。

弊社は2004年に設立し、現在は100人程の従業員がいます。自動車部品、電子部品、機械部品の製造から事業を始め、事業拡大のチャンスを迎えたタイミングで、自社ブランドの自動二輪車部品の開発製造を行いました。その結果他社ブランドの受注生産にも携るようになり、自社ブランド製品はタイ国内のみならず海外販売も行っています。



自社製品のsprocketセットとブレーキパッド

**2. 御社の事業内容及び主要製品について教えてください。**

弊社の主要製品は二つの分野に分けられます。一つ目は、自動車部品の受注製造を行い自動車業界に部品を供給しています。二つ目は自動二輪車のギアやチェーン、ブレーキパッドなどを国内及びベトナム・インドネシア・カンボジア・パキスタンといった海外のアフターマーケットで販売しています。



自動二輪車の部品



スタンピング部品

**3. 御社の強みを教えてください。**

製造工程における熟練した技能、正しい品質管理の技術があげられます。また、顧客に最大限に満足頂けるよう、受注量の多寡を問わず、デザインの研究開発などを通して、顧客の要望に沿った部品づくりを行っています。

**4. 事業を運営するにあたり、大事にしている点をお聞かせください。**

製造する部品の品質確保と納期厳守にコミットし、顧客満足度の向上に努めています。

**5. 技術者への研修はどのように行っていますか。（技術面でのアドバイス、勉強会や講習会）**

従業員が技術を応用し、業務の質を高めていけるよう、人材育成を重視しています。まず始めに各部署において基礎知識の講習会を行い、実務による研修・訓練（OJT）を行います。高い技術を身につけたい部署があれば、知識向上のため、外部の講習会に参加させることもあります。

## 6. 事業運営における障害はありますか。

政府方針による原材料輸入関税の壁があります。タイ国内で製造する場合、中国から完成品を輸入するより原価が高くなります。国内の製造業が促進されず、大きな影響を受けています。

## 7. 海外支店はありますか。今後、海外展開の予定はありますか。

現在、海外支店はありません。しかしながら、海外へ製品を輸出しているため、もし輸出先国で製造ができればコスト削減につながり、市場競争におけるビジネスチャンスも増えるので、機会があれば海外展開も視野に入りたいです。



工場内の機械：ロボット



工場内の機械：プレス機

## 8. 日系企業とのビジネスに関心はありますか。もしあれば、どの事業でしょうか。

弊社の顧客のうち 70%はタイに投資している日系企業です。機会があれば日系企業との Joint venture に興味があります。技術やノウハウを交換できますし、製品の飛躍的進化のための協力もできます。明確にどの事業と考えているわけではありませんが、現在、タイ政府が新たなターゲット産業（New S-Curve）<sup>1</sup>として注力している事業に関心があります。

\*1 筆者：タイ政府の新たなターゲット産業（New S-Curve）は下記の産業を指しています。

- ① ロボット産業（Robotics Industry）
- ② 航空及び物流業（Aviation and Logistics Industry）
- ③ バイオ燃料及びバイオケミカル産業（Biofuel and Biochemical Industry）

- ④ デジタル産業 (Digital Industry)
- ⑤ 医療ヘルスケア産業 (Comprehensive Healthcare Industry)

**9. 日系企業や海外企業とビジネスをしたことはありますか。もしあれば、難しかった点、そして一緒に事業を行うメリットを教えてください。**

日系企業とビジネスを行うメリットはたくさんあります。例えば、コスト削減のための業務パターン、考え方、向上・改善方法から学び、企業を成長させることができます。

**10. 日本の製品や技術に関心はありますか。**

関心はあります。現状、大部分の顧客は日系企業なので、日本製の機械や最先端の技術を使用すれば、彼らも弊社の製造品質を確信できます。

**11. タイのビジネスや製造業の現状についてご意見をお聞かせください。**

タイの製造業は国内の企業間に加え、海外企業との激しい競争にさらされています。現代多くの企業はグローバルソーシングの方法をとっているため、製造におけるコスト競争は非常に激しくなっています。その他にも、最低賃金の引き上げ、輸入関税といった問題があります。とはいえ、タイ企業は製造工程における熟練した技術、緻密な部品を製造する能力、品質レベルの管理において優位性があります。

**12. 新型コロナの影響とその対処方法、また新型コロナ流行が収束した後の製造業の方向性やビジネスチャンスについてご意見をお聞かせください。**

ほとんどの企業や製造業が新型コロナ蔓延の影響を受けています。新型コロナの流行が拡大し始めた頃、弊社は一つの産業に的を絞った部品製造を行っていたので、売上が80~90%減少しました。この出来事により、弊社は、一つの産業に依存するのではなく、他の産業の顧客開拓のために手段を講じるようになりました。



工場内の雰囲気

**13. 日本企業とタイ企業が参加するビジネスマッチング、ビジネス交流会、展示会などに関心がありますか。**

日本と同じく、タイも高齢化社会を迎えます。従って、医療機器産業やシルバー産業にビジネスチャンスがあると考えています。日本企業とタイ企業がこの分野の技術や機器の発展において協力しあえば、ビジネスの良い機会になると思います。

**14. 最後に、タイ製造業界に関心がある島根県の製造業、またタイ国内の日系企業に対してPRをお願い致します。**

弊社は顧客、サプライヤー、ビジネスパートナーを大切にします。コスト競争力を高め、品質管理を実践し、顧客に最大限に満足していただけるよう、これからも、製造技術をたゆみなく発展させ、さらなる効率化を目指し改善を続けていきます。

## 会社概要

社名：SCC Tech Co., Ltd.

設立：2004年11月11日

資本金：2,000万バーツ

従業員数：100名

住所：125 Moo 21 Bangplee-Ya,  
Bangplee, Samutprakarn 10540 Thailand

Tel：+66-2-346-5110-1

Fax：+66-2-346-5114

Email：[sale@scctech.co.th](mailto:sale@scctech.co.th)

URL：[www.scctech.co.th](http://www.scctech.co.th)



□ ■ ASEAN 各国のコロナ感染状況 ■ □  
 ~各国の入国制限とタイの今後の見通し~

昨年1月に中国以外で初となる新型コロナウイルスの感染者が、タイで確認されてから1年が経過しました。タイでは昨年1月以降に感染が拡大しましたが、3月下旬からロックダウンや外国からの渡航が制限したことにより、5月には新規感染者が減少、その後も感染拡大を抑えることに成功していました。

しかし、昨年12月にバンコク都西隣のサムットサコーン県で、外国人出稼ぎ労働者を中心とする500人以上のクラスターが確認されてからは再び感染が拡大してしまいました。年明けから県単位で娯楽施設の閉鎖、飲食店の営業制限、学校の休校、県境をまたぐ移動の制限などが実施され、2月上旬に一部制限は解除されましたが、バンコクでは現在も飲食店での飲酒が禁止されています。

今回はタイを中心に、東南アジア各国の新型コロナウイルスの感染状況や渡航規制、ワクチン接種の状況についてお伝えします。

**東南アジア各国と日本の新型コロナウイルスの感染状況（2月7日現在）**

国名	累計感染者数	直近7日間の感染者数	1日あたりの感染者数（平均）	直近7日間の死亡者数	累計死亡者数
タイ	23,371	4,589	656	2	79
インドネシア	1,147,010	80,697	11,528	1,665	31,393
ベトナム	1,985	204	29	0	35
ミャンマー	141,304	1,440	206	43	3,168
マレーシア	238,721	29,060	4,151	111	857
シンガポール	59,675	168	24	0	29
フィリピン	535,521	12,005	1,715	441	11,110
カンボジア	474	9	1	0	0
日本	403,435	16,693	2,385	648	6,338

※データ出所：[世界保健機関](#)

## 東南アジア各国の入国制限・渡航制限状況

国名	渡航・入国に関する規制
タイ	<p>2020年12月23日以降、日本から観光目的でのビザなし渡航が可能。日本を含むVISA免除の対象となっている国籍保有者は、以下の条件で入国が可能。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一回の入国につき、45日以内の滞在であること</li> <li>2. パスポートの有効期限が入国日から数えて6か月以上であること</li> <li>3. 一人当たり10,000バーツ、一家族当たり20,000バーツ相当の現金や資金を所持していること</li> <li>4. 滞在期限以内に出国することが確認できること（例：航空券、電車、バス、船のチケットなど）</li> <li>5. 在京タイ王国大使館または総領事館（大阪・福岡）で入国許可書（COE）を取得すること</li> <li>6. タイ到着前に追跡アプリ「Thailand Plus」をダウンロードして登録すること</li> <li>7. タイ入国後、タイ政府代替検疫施設（ASQ）に指定されているホテルなどで14日間の隔離検疫を行うこと（費用は自己負担）</li> </ol>
インドネシア	<p>滞在許可（ITAS）・定住許可（ITAP）を持つ場合や、人道理由等特別の場合を除き、外国人の入国を一時停止中。</p>
ベトナム	<p>外国人の入国は原則禁止。但し、外交旅券、公用旅券所有者、特別な場合（重要な外交活動に参加する外国人、専門家、企業管理者、高技能労働者等）に対しては、必要性を検討し査証を発給する。その場合でもCOVID-19陰性証明書が必要。</p>
ミャンマー	<p>国際旅客航空便の着陸を禁止。陸路による外国人の入国を無期限に禁止。</p>
マレーシア	<p>外国人の入国は原則禁止。永住者、外交官、マレーシアにおいて必要不可欠なサービスに従事する駐在者パス保有者、マレーシア・マイ・セカンド・ホーム（MM2H）パス保有者、留学生及び医療ツーリズム目的の渡航者、永住者に限り入国を許可されるが、日本出国前72時間以内のPCR検査陰性証明や、入国後指定の施設で10日間の隔離検疫が必要。</p>
シンガポール	<p>長期滞在ビザ（労働パス及び帯同者パス（EP、S Pass、DP等）を含む）保有者以外の入国は禁止。長期滞在ビザ保有者も再入国前に当局による承認が必要（事前承認がなくシンガポールに到着した場合、ビザの永久剥奪処分の対象になる）。日本から入国する場合の要件は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本出国前72時間以内にPCR検査を受検し陰性の証明書を取得（入国審査時必要）</li> <li>2. 入国時PCR検査が必要（費用160ドルは自己負担。事前予約が望ましい） <a href="https://safetravel.changiairport.com">https://safetravel.changiairport.com</a></li> <li>3. 入国後14日間政府指定施設での隔離検疫（費用は自己負担）</li> <li>4. 隔離検疫終了前の指定された日にPCR検査を受検（費用は自己負担）し、陽性であった場合は、無症状であってもその結果が出た日から3週間療養施設に隔離</li> </ol>

フィリピン	日本を含む査証免除対象国からの入国と、全ての在外公館における新規査証発給を停止中。ただし、2020年3月20日時点で発給済みで、かつ、入国時点においても有効な査証を有する者の入国を許可する。特別居住退職者ビザ（SRRV）又は短期渡航者ビザ（9(A)）を有する者は、入国時に、フィリピン外務省発行の「入国禁止措置からの免除書類」を提示することにより、それぞれ入国を許可する（※渡航前に在京フィリピン大使館に相談のこと。）
カンボジア	<p>全ての外国人渡航者に対し観光ビザ、e-visa、アライバルビザ（到着時に申請・取得が可能などビザ）の発行を停止中。カンボジアへの渡航を希望する者は、海外のカンボジア大使館・総領事館等で事前のビザの取得が必要。</p> <p>入国する全ての外国人渡航者に求められる検疫措置は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入国時に、PCR検査（鼻咽頭スワブ）に基づき、かつ居住国からカンボジアに向けての出発前72時間以内に居住国の保健当局などから発行された新型コロナウイルスに感染していないことを証明する英語の健康診断書の提示</li> <li>・FORTE insurance Company のウェブサイトにて購入した COVID-19 健康保険の提示</li> <li>・保健省が指定するホテルにて14日間の隔離</li> <li>・2,000米ドルのデポジット支払い（デポジットは、隔離期間の宿泊費、新型コロナウイルス感染検査、移動費に充当され、隔離期間終了後3日以内に残金が返金される）</li> <li>・到着時及び隔離13日目に、新型コロナウイルス感染検査の受検（感染が疑われる場合には、追加的に検査を受検）</li> </ul>

※出所：[外務省海外安全ホームページ](#)、各国日本大使館 Web サイト、各国在日大使館 Web サイト

タイを除く各国では、入国を全面禁止もしくは滞在許可等を持たない外国人の入国を禁止しています。タイは日本からのビザなし渡航が再開されましたが、入国許可書（COE）の事前取得や、入国後14日間の隔離検疫が義務付けられており、通常化にはまだまだ遠いのが現状です。

続いて各国の新型コロナワクチンの接種の状況です。

国名	ワクチンの接種状況（2月15日時点）
タイ	4月末までに新規感染者が多く確認されている10都県の96万人にワクチン接種を行う見通し。初段階では60歳以上の人、持病があって重症化リスクの高い人、医療従事者が対象。
インドネシア	1月末の時点で医療従事者を対象としたワクチン接種を49万人に実施。2月中に150万人への接種実施を目指し、4月末には一般市民に対しての接種を開始する方針。
ベトナム	WHO 主導による世界的な新型コロナウイルスワクチン配分計画「COVAX（コバックス）ファシリテーター」を通じ、第1四半期に供給が開始される見通し。
ミャンマー	1月27日に医療関係者へのワクチン優先接種を開始、2月2日までに10万人超が接種を受けた。2月5日には最大都市ヤンゴンで、65歳以上の高齢者への接種も開始され、同日中に約300人が受けた。

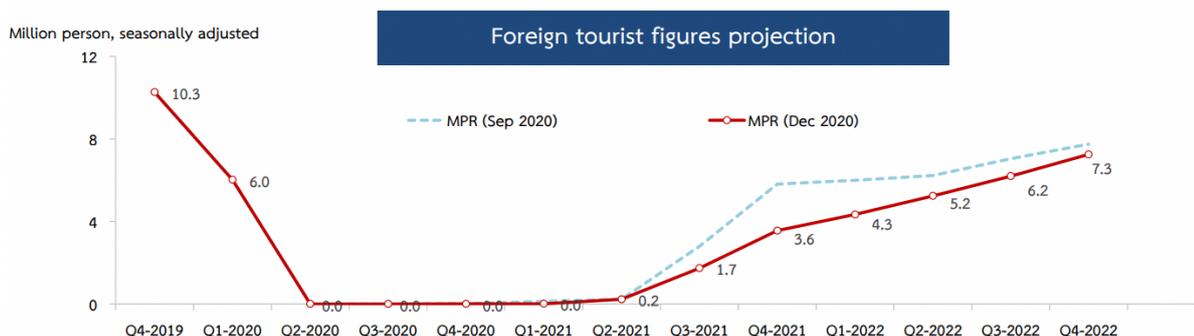
マレーシア	2月末に医療関係、保健省職員、警察官、軍人向けに接種を開始、1日あたり12万人超に実施する見通し。
シンガポール	2020年12月末に接種を開始。1月末の時点で11万人以上が初回接種を受け、2月22日には70歳以上の高齢者向けのワクチン接種を本格化させる見通し。
フィリピン	2月中に接種を開始する見通し。
カンボジア	2月10日に医療従事者などを対象にワクチン接種を開始、4月中旬までに約50万人への接種が目標。

この表（2月15日時点）では、半分の国ですでに接種を開始しており、残りの各国も早い時期での接種開始を計画していますが、現地報道によるとワクチンの調達が計画より遅れている国もあり、今後ワクチンの接種が順調に進むかどうか心配されます。

### ～日本ータイ間の渡航通常化への見通し～

最初の表にもあるとおり、タイでは昨年末から新規感染者が急激に増加し、現在でも一部制限が続いています。今後、ワクチン接種による感染者数の減少が期待されるのですが、タイの主要産業の一つでもある観光業の回復には、海外からの外国人旅行者の（14日間隔離検疫なしでの）受け入れ通常化が欠かせません。現地報道によると、タイ政府観光庁総裁と観光大臣が、ワクチンを接種した外国人観光客の14日間の隔離検疫なしでのタイ入国の可能性について言及しています。タイ政府観光庁のユタサック総裁は「ワクチンパスポート（ワクチン接種証明書）」の導入を検討していると発表、他のASEAN諸国の観光局にも、地域全体の観光を刺激するために「ワクチンパスポートモデル」を採用するよう要請しました。さらに観光・スポーツ省のピパット大臣は、外国人観光客をタイに呼び戻すために、新型コロナウイルスのワクチンを摂取した外国人に対して、14日間の隔離検疫なしでのタイ入国を許可する計画を明らかにしています。その他にも外国人に人気の観光地を中心に、観光業界で働く人に接種するために500万回分のワクチン確保を首相に要請するなど、観光業の再生に向けて準備を進めていますが、その一方でタイ保健省疾病管理局は「ワクチンを接種した人が、感染を拡大させないという十分な証拠がない」ことなど指摘し、「ワクチンパスポート」の導入に反対する姿勢を示していることから、しばらくの間は引き続き14日間の検疫隔離を義務付けられる見通しです。

現時点での予測によると、外国人観光客の戻りは2021年下期と見られています。



出所：タイ中央銀行

☆☆タイからの便り☆☆

～タイの高齢化社会に伴い、シニア向け住宅開発は不動産開発業者に熱視線～

こんにちは。島根ビジネスサポートオフィスのタイ人スタッフ、ニンです。

多くの方がご存じの通り、タイでは既に「高齢化社会」に突入しております。2020年の時点で、総人口に占める60歳以上の高齢者の割合が18%となりました。タイ国家統計局(NSO)の情報によると、2030年には、その割合が27%近くになることが予想されております。

そのため現在シニア向けの住宅開発は、不動産開発業者に注目されています。昨年、タイの不動産開発会社のタナシリ・グループは、2020年2月3日に日本の穴吹興産(香川県高松市)との合併による住宅を中心とした不動産開発を手掛けるアナブキ・タナシリ(タイランド)株式会社を設立しました。資本金5,000万バーツ(約1億7400万円)で、タナシリが50%、穴吹興産が49%、タイ鴻池が1%出資しました。

今回は、昨年12月に発売されたばかりのアナブキ・タナシリ物件を見学してきました。



外観の様子

こちらの物件については、バンコクの北西に隣接するノンタブリ県にあります。バンコクの中心地のスクンビットエリアからであれば、車で約40分ほど（高速利用）でアクセスできます。高齢化の先進国である日本が持つ高齢者がつまづきやすい段差や場所をなくすなどの家づくりのノウハウを活用し、三世代が一つ屋根の下で暮らせるアナブキ・タナシリ・ハビタットという戸建て分譲住宅を建設しました。

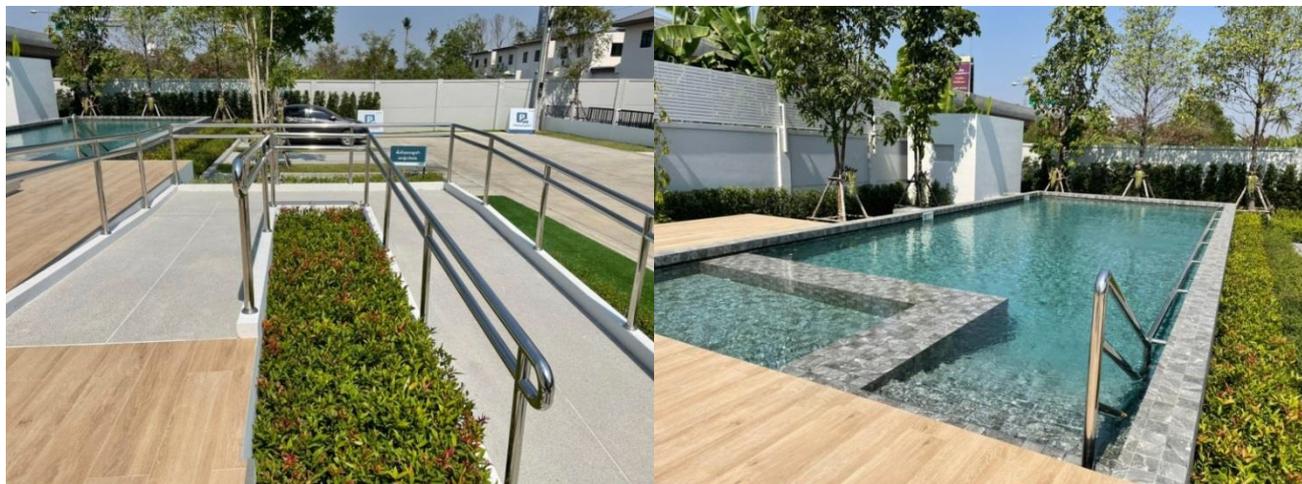
全88戸で、第一弾の物件は販売を始めました。ハートウッド（HEARTWOOD）、サブウッド（SAPWOOD）、形成層（CAMBIUM）の3つのタイプに分けました。最も低価格な物件でも2階建て延べ床面積144平方メートルで、559万バーツ（約1,950万円）です。



左はハートウッド（HEARTWOOD）、右はサブウッド（SAPWOOD）

違いは、横の庭の広さです。

共用施設にはコワーキングスペースや、ジム、プールなどがあり、プールにはシニアの方もご利用いただけるように車椅子用スロープを設置しました。



住宅の室内は段差を極力減らし、ドアは車椅子で通れる有効幅も設けました。それに加えて、スロープや高齢者向けの見守りサービスは、居住者のご希望に応じ、オプションで設置・利用可能です。



現在、タイで分譲住宅は大変人気があります。住宅の造りは時代の変化に合わせて設備及び、様々なノウハウを活用し変化しています。しかし、住宅内の洗濯場や2階のトイレなどの水が流れるところには、段差があることが多く、昔からあまり変わっていません。高齢者、子供にとって危険な場所ということはもとより、私自身も不便だと感じています。慌てている時や家事に夢中な時には段差があることを忘れてしまい、つまずいたり滑って転んだりすることがあるためです。段差が必要な理由は、タイの排水システムがまだ良くないためです。簡単にはなくならないと思いますが、日本の建築技術のみならず上下水道システムを取り入れた快適な住宅づくりが期待されます。

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当 ; 神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address :1 VAS U1 Building, 12 FL., Room 1202/D,Soi Sukhumvit 25,  
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-1058

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

## ▶ タイ経済指標

項目	単位	2018	2019	2020	2021
GDP 成長率	前年比(%)	4.2	2.4	-6.8(1~9月)	-6.8 (20年1~9月)
人口*	千人	67,869	68,021	68,143(11月)	68,143 (20年11月)
労働者の数*	千人	38,353	38,207	39,451	39,451 (20年)
失業率**	%	1.06	0.99	1.62	1.62 (20年)
最低賃金*	バンコク	325	325	331	331
	チョンブリー	330	330	336	336
	アユタヤー	320	320	325	325
	ラヨー	330	330	335	335
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,831	13,131	13,562	13,562 (20年)
インフレ率**	前年比(%)	1.06	0.71	-0.84	-0.84 (20年)
中央銀行政策金利*	%	1.75	1.25	0.50	0.50(1月)
普通貯金率**	%	0.47	0.47	0.31	0.25(1月)
ローン金利(MLR)**	%	6.32	6.29	5.60	5.42(1月)
SET 指数*	1975年:100	1,563.8	1,579.84	1,449.35	1,466.98(1月)
バーツ/100円**	バーツ	29.26	28.48	29.33	28.95(1月)
バーツ/米ドル**	バーツ	32.31	31.05	31.29	30.01(1月)
円/米ドル**	円	110.4	109	106.8	103.7(1月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	1,041,311	1,019,602	779,857	779,857 (20年)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,469	1,500	1,174(1~9月)	1,174 (20年1~9月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	549.48	447.36	274.64(1~9月)	274.64 (20年1~9月)

\*期末、\*\*平均